

あ た か せ き あ と
安 宅 の 関 跡

種 別	県指定文化財 史跡
指定年月日	昭和14年3月18日
所在地	安宅町（安宅住吉神社）

文治3年（1187）、兄頼朝と対立した源義経は京都を逃れ、奥州の藤原秀衡の下への逃避行を始める。義経一行は修験者に変装し、木曾街道を進む。安宅の関を通過しようとする一行だが、関守・富樫左衛門尉泰家に疑われ、厳しい尋問を受ける。この危機に際し弁慶は、偽の巻き物を広げて即興で「勸進帳⁽¹⁾」を読み上げ、さらには主君・義経を棒で打ち据える。その忠義心に感じ入った富樫は、正体に気付きながらも通行を許可するのであった。

この場面は「勸進帳」などで知られる有名な場面である。15世紀後半に能「安宅」が作られ、さらに江戸時代の天保11年（1840）に歌舞伎「勸進帳」が初演されて以来、歌舞伎十八番の一つとして今も受け継がれている。

旧関所の具体的な所在は不明であるが、史跡としては二堂山^{ふたつどう}が指定されている。海を見下ろす松林の丘であり、ここには「安宅関址」の石碑や、義経・富樫を祀る関の宮、弁慶衣かけの松があるほか、弁慶・富樫・義経の三体の銅像が建てられている。

(1) 勸進帳：寺院の建立や修繕への寄付を集めるための趣意書。



二堂山に立つ関址の碑



関の宮



義経・弁慶・富樫の銅像